

## ネットワーク会議(ネット配信版)案



構成員の皆さまへ

今年度はコロナウイルスの影響で、大人数での会議体が開催できないこともあり、ネットワーク会議（昨年度までの全体会）に関しては、ユーチューブでのネット配信を検討しております。つきましては上の図の通りに動画を撮影・配信していきたいと思っております。

1. 浜松市東障がい者相談支援センター開所の挨拶
  2. 浜松市障がい者自立支援協議会について、浜松市障害保健福祉課からの説明（7月15日の全体会と同様の内容）→11/10撮影予定。
  3. 東エリア組織図についてセンター長:玉木からの説明
  4. 今年度構成員になられた方々（10名）+事務局（東センター・社福課）の自己紹介・意気込み一言 ※撮影に関しては東センター:大軒・三嶋で何う予定です。
- 1から4の順番で1つの動画として配信をしていこうと思います。構成員の皆さまにはご迷惑とご協力のほどよろしく申し上げます。

## 第1回 当事者意見交換会 会議録

令和2年10月28日(水) 13:30-15:30 東区役所33会議室

### 【出席者】

身体障害者相談員・浜松市身体障害者福祉協議会：山本千代子  
身体障害者相談員・浜松市視覚障害者福祉協会：高畑葉都子  
身体障害者相談員・浜松市身体障害者福祉協議会：長谷川浩  
知的障害者相談員・浜松手をつなぐ育成会：高林玲子  
知的障害者相談員・浜松手をつなぐ育成会：鈴木美穂  
精神障害者相談員・浜松断酒会：中村道孝  
精神障害者相談員・明生会：一ノ瀬安裕  
東障がい者相談支援センター：玉木、大軒(司会)  
東区社会福祉課：久野  
オブザーバー 基幹相談支援センター：岸(急遽参加)

あいさつ 東区社会福祉課 久野

### 1 参加者自己紹介

2 **浜松市障がい者自立支援協議会・東エリア連絡会の体制説明** (東障がい者相談支援センター 玉木)  
組織図をもとに東エリア連絡会の体制について説明した。

3 **当事者意見交換会の目的** (東障がい者相談支援センター 大軒)  
頻度は年2回程度としているが、この限りではない。2回以上開くことも考えられるし、各回参加メンバーの顔触れが変わることもありうる。

### 4 各相談員所属団体についての紹介

#### 浜松手をつなぐ育成会：高林玲子

障害有る子を持つ親の会。会員数1,098名。  
会誌発行(年4回)。会社見学や天浜線貸し切りのイベント催しなどを開催。

#### 浜松市身体障害者福祉協議会：長谷川浩

身体障害者の社会参加を増やしてゆくため、各種イベントを開いている。  
グラウンドゴルフ、輪投げ、ボーリング、卓球、麻雀など。  
会員数は200名弱。

#### 浜松市視覚障害者福祉協会：高畑葉都子

視覚障害のある障害者の社会参加と自立を目的としている。会員は100名弱。  
勉強会、交流会の開催や、生活用具の展示や体験を通じて、中途失明の人に対して今後の自立へ向けて支援している。

#### 明生会・一ノ瀬安裕

昭和47年に発足し、平成6年NPO法人として再スタートした。家族を中心に98名の会員がいる。  
心に障害を持つ人と家族の生活の質を高めるのが目的。  
月・火・水・金 10:00-15:00、2、3人が相談に対応する。相談員として6名、うち心理士の資格者2名。  
広報誌「つながり」を年4回発行している。  
主に家族向けの勉強会を開催。先日は、親亡き後の障害者の生活について、をテーマに盛況だった。  
年1回、家族と本人の旅行会を開催している。

#### 浜松断酒会・中村道孝

今年で設立50周年になる。  
依存症の人は、磐田の服部病院に3ヶ月入院するが、退院してからが大変。断酒に成功するのは2割だけ。  
毎週土曜日 19:00-21:00 福祉交流センターで、酒害についての体験談を語る。  
年数回、専門医の講演会開催。

14:50 一旦休憩（5分間）

14:55 再開、この後2グループに分かれて討議。

## 第2部

司会：大軒、書記：久野、鈴木美穂、中村道孝、長谷川浩

各会とも、担い手が少なくなっている中、どのように会を維持していくのか？

（長谷川）パンフレットを作って募集をかけている。HPでも挙げているが、若い人の閲覧は無いようだ。

東区内の車椅子でも利用できるトイレマップないか？

行政では作ったようなことは聞いていない。以前、浜北区で作ったと聞いている。

（長谷川）静岡県東部（伊豆、三島）にいた時に、冊子を作ったことがある。

→後で調べたら、駅周辺を扱った「浜松まちなかトイレマップ」というのがあった。

（鈴木）

知的障害児の親にとって、先輩お母さんの経験を聞けると安心する。

「浜松みおつくし特別支援学校」通学について。小中から学区が変わり、高校になると自主通学なので、困る人が出てくるのではないかと。情報が欲しい。開校後も継続的に追ってゆくべき問題。

（中村）

週1回土曜日夜間に来れない人には、月1回昼間の例会がある。

アルコール依存症は、実は身近な問題である。本人だけでなく、家族も困っている。

磐田の服部病院の、金曜日の院内定例会には、本人・家族が来て、酒害体験を赤裸々に語っている。

その場には県東部からも参加者が来る。

アルコールの害について、もっとPRしてゆかなければならない。

（岸）

各団体の活動について、これほど詳しく聞いたのは今回が初めて。

障害者支援法は、目的意識がはっきりしていて、そこに合わない人のニーズをどう扱ったらいいかが問題。

参加：高畑様、高林様、一ノ瀬様、山本様、東センター 玉木・三嶋

・身近な問題が出てくるため、聞き出せる場があるといい。

（最近だと、防災・障害理解・親の高齢化や亡き後について）

・障害特性に応じて、課題と感ずることが違うため、一緒に意見交換会を開催することは難しいのではないかと？別々で開催したほうがいい。

・座談会にも参加する人、しない人がいる。発言も集まって言えるかというところでもない。

➤最近ではオンライン化が進んでいるので、ZOOM等で参加して、自宅の安心できる環境の中ではないかといただくのも一つの方法。

・視覚障害については、一人で動ける方と、動けない方だと課題意識が違う。動けない方のほうが大変で、ヘルパーと常に動かなければならないため、時間数の問題等がある。

自分達の団体でできないことを是非、やってもらいたい。すべての障害者が会員となっているわけではないので、総意として吸い上げて行くことは難しいと感じる。

・福祉交流センターの改築等で集まれる場所が減ってきている。

・会員数についても、なかなかPRできる場所がないので、減っていく一方。以前に浜松市へ広報の依頼をしたが、実現せずNHKにお願いして無料で短時間したところ、聞いた方が会員になられたこともあった。

会員外の障害者がどこで過ごしているかはわからない。社会福祉課の手帳所持者で把握できるのでは無いか？

要援護者についても整備できているのか？所属団体での名簿で把握することはできるが、

・以前に、相談員として対応できない案件があり、社会福祉課にお願いしたが、社会福祉課でも対応できないとのことで、たらい回しに会い、その方は相談を諦めてしまった。そういったことが無いようにしていきたいが、どこに相談していいかわからない。